

実績報告

看護部

- 2階病棟
- 3階病棟
- 4階病棟
- 5階病棟
- 精神科救急病棟

- 中央材料室



看護部

【平成29年3月31日時点の看護部スタッフ数】

看護配置基準	15:1
看護師（パート含む）	127名
准看護師	6名
看護補助	26名

【平成28年度採用者・退職者数】

	4月1日 新卒採用者	4月以降 既卒採用者	4時間勤務の パート採用数	正規職員退職 者数
看護師	13名	2名	0名	7名
准看護師				0名

【看護職員の離職率】

平成28年度常勤看護職員の離職率は6.0%（10.8%）、新卒看護職員は0%（7.5%）

※カッコ内は公益社団法人日本看護協会平成27年度調査結果

【平成28年度活動を振り返って】

①権利擁護、接遇に配慮した質の高い看護の提供を実践する。

治療抵抗性の高い、極めて不穏、興奮が著しい、長期入院、意思表示の困難終末期、業務が重複して多忙・繁忙を極める時を振り返ると患者とその家族への関わりに個人または病棟全体に課題を残していると感じる。タイムリーに課題を共有、改善する習慣をつけていきたい。

接遇委員会が立ち上がり、活動に期待したい。

②医療事故防止：インシデント・アクシデントレポート発生総件数の減少に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。

平成28年度南浜病院におけるインシデント・アクシデントレポートの総件数は651件（前年度+110件、+20.3%）であった。精神科救急病棟、慢性期高齢、治療抵抗者の多い病棟の報告件数が多かった。

事故の種類上位1位は：転倒・転落212件（前年度+53件、うちレベル3は5件、前年度+1件）2位：薬剤108件（前年度+20件）、3位：療養上の世話51件（前年度-14件）であった。

1位の転倒・転落については入院者の高齢化、認知機能障害、安全対策への理解と協力困難などが考えられるが、これまで以上に個別性、具体性を考慮した対策が必要で、看護職員の再認識、教育を実践していきたい。

2位の薬剤はヒューマンエラーによるところが多い。防止強化月間を設けたが当該月を過ぎると増加復調が否めない。

3位の療養上の世話は自己服薬のエラー等が目立った。

平成28年度インシデント・アクシデントレポートの総件数を減少させるどころか大幅な増加となった。結果を真摯に受け止め、分析と改善策の実践が急務である。一般スタッフに求めがちな改善策よりも管理・監督者、リーダーに求められる姿勢やマネジメント能力の課題を明確にしたいと考えている。繁忙な業務傾向にある中、看護職員一人ひとりが、より患者の立場で気持ちよく仕事ができ、安全確保、質の担保につながる健全な職場づくりを目指していきたい。

③各病棟の行動目標の明確化と実践（アクションプランの公表、実践、評価）

平成29年度各病棟のアクションプラン

※アクションプラン P.160

【平成29年度抱負】

- ①医療事故防止：インシデント・アクシデントレポート発生総件数の減少に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。
- ②権利擁護、接遇に配慮した質の高い看護の提供を実践する。

看護部長 大滝 寛

【部署名】

2 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

50床

【職 種】

31名（看護師19名 准看護師1名 看護補助員11名）

【業務内容】

2 階病棟は、開放病棟対象の精神疾患の患者や内科的疾患を合併している患者、廃用症候群等により寝たきり或いは歩行が困難で車椅子生活を余儀なくされている患者が通常7割以上入院している病棟である。

入院患者50名中、経管栄養の患者が10名前後、オムツ使用者50名前後、寝たきり又は車椅子使用患者は45名前後である。内科的疾患を合併している患者には内科機能を充分に発揮しつつ、寝たきり予防のため、車椅子の乗車時間を設け、作業療法（以下OT）への参加を促し、心身共にメリハリのある日常生活を送れるよう細心の注意を払いながら、事故のないよう援助・ケアを提供している。個人OTとして個別の身体リハビリも実施しており、機能の向上・維持を図るなど、病棟担当OTと一緒に援助・指導している。

急性期の内科疾患患者の輸液・酸素管理など、身体的な管理や高齢に伴う精神科薬投与量の見直し（転倒リスクを踏まえた）にも注意を払っている。と同時に、経管栄養の管理や、終末期ケアで患者の希望に沿った援助も行っている。

褥瘡対策、感染対策にも力を入れ、（褥瘡患者年間平均2名）感染症のアウトブレイクもなかった。

今年度は心理療法として回想法を毎週水曜日に実施した。話す機会が増えたことでコミュニケーション意欲の向上に繋がり、心の安定が図れた。

【今後の展望】

平成29年度の看護目標は、「心のこもった医療を提供し、少しでも患者の要望に応えていきたい」とのスタッフの思いが一致し、『すべては患者様のために』を掲げた。

入院患者の平均年齢は78歳前後であり、年々、終末期医療の患者や、輸液・酸素管理等の全身管理の必要な患者、ADL全介助の患者が増え、病棟業務は多種多様化し、肉体的な業務も増えている。その中でも2階病棟の一員である事を誇りに思い、心のこもった看護を提供し、患者が少しでも落ち着いて安心できる環境の中で過ごせるよう心掛け、2階病棟に入院して良かったと思えるよう努力していきたい。

今年度から開始した回想法では意外な一面が観察できるなど患者理解も深まった。来年度も楽しみながら出来る回想法を継続して実施していきたい。

今後も安全で安心できる看護を提供し、高齢者内科病棟としての役割を果たしていきたい。

文責 神田由香里

【実績】

	特殊疾患入院施設管理加算対象率
4月	81.4%
5月	75.0%
6月	72.8%
7月	72.3%
8月	72.0%
9月	72.0%
10月	71.4%
11月	74.0%
12月	71.4%
1月	73.4%
2月	70.0%
3月	72.0%

【個別身体リハビリテーション状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介入平均数	1.17	1.38	1.48	1.37	1.76	1.59	1.19	1.34	1.45	1.43	1.67	2.0
介入合計	48	47	40	41	50	51	50	59	58	59	27	78

【部署名】

3 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

59床

【職 種】

27名（看護師21名 准看護師 1名 看護補助員 5名）

【業務内容】

病棟の機能として、長期入院者及び治療抵抗者の退院支援と精神科救急病棟をはじめ、他病棟の後方支援病棟としての役割を担っている。その為、慢性症状を呈し入院が長期化している患者と急性症状を呈した患者が混在している。その中で、日常生活の援助を中心に、集団・個別の生活スキルの向上、機能回復及び自立に向けた支援を行っている。具体的には前年度から開始した自治会（地域生活を意識しての患者全体MTG）を継続して実施し、その中で相談することに慣れてもらい、お互いに知恵を出し合うことで自身の生活のスキル（対処方法）向上に繋げてもらえるよう支援している。また、朝の集いを行い患者自身がその日の予定を立て生活が送れるよう支援を行っている。

そして、患者の希望を現実に繋げられるよう退院に向けての支援として、定期的にカンファレンスを実施し、方向性を定め、他職種によるサポート支援を心がけて進めている。

【今後の展望】

病棟目標は『私たちは日々の関わりの中で患者様のサインに気付き、情報を共有し安全な看護を提供します』を掲げ業務に携わっていく。

これまで同様に患者の希望する生活実現のため、そして安全な看護を提供していくために、以下の内容に重点を置き支援を進めていく。

- ① 患者との信頼関係を築き、前向きな気持ちで生活を送れるよう支援する
- ② 安全で清潔な環境づくりに努める
- ③ 行動制限の早期解除に向けた取り組み
- ④ 長期入院患者の長期化にストップ！をかける退院支援の取り組み

文 責 深井真奈美

【実 績】

H28. 4～H29. 3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者数	7	2	10	5	9	11	5	8	1	3	10	4
退院患者	1	2	9	2	10	7	2	7	3	5	4	3
転入患者	6	11	9	5	1	4	7	8	5	9	5	3
転出患者	11	10	10	8	2	6	8	11	4	9	6	3
1日平均患者数	54.9	55.3	56.7	55.6	55.5	54.9	56.1	56.4	55.7	53.5	56.5	58.6

【部署名】

4 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

58床

【職 種】

25名（看護師19名 准看護師1名 看護補助員5名）

【業務内容】

今年度より比較的安定した慢性期の精神症状を有する患者の他、精神科救急病棟で治療対象とならない認知症患者の受け入れ病棟という位置づけとなった。

慢性期の長期入院患者には社会参加・社会復帰するための支援、認知症患者や日常生活で介助を有する患者には、快適で穏やかな療養生活を提供し、退院へ向けてのアプローチを行っている。

日常生活に毎日OT活動を取り入れ、文化活動・体育活動・調理実習・外出活動などの集団プログラムを通して病状の安定、対人関係能力の維持向上、生活リズムの回復、気分転換など図れる様にしている。

認知症患者を対象にした小グループを作り、感情の安定や不安感・孤独感の軽減、自分の培ってきた力の再発見、自尊心の向上などを目指した『回想法』を実施継続してきた。また、今年度の新たな取り組みとして、高齢者、認知症患者への関わり方の技法としてユマニチュードを取り入れた援助の実践ができるよう、外部研修の参加や病棟勉強会を行って職員のスキルアップにも努めている。

病棟患者の平均年齢は70歳を超え、認知症患者の病棟患者比率も30%を超えてきている。誤嚥や転倒などのリスクが高くなってきているため、リスク軽減ができるような看護、援助を行っている。

【今後の展望】

- ・退院に向けた多角的なアプローチとサポートの継続
- ・担当による、患者個別のコーディネートと院内外の多職種・関係各所との連携
- ・環境整備や身体機能の維持、向上を図ることによる転倒リスクの軽減
- ・患者対応時の接遇意識の向上

文 責 布川征一郎

【実 績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 院	0	2	3	2	2	1	4	0	2	0	0	0	16
退 院	1	3	6	3	3	4	2	0	2	2	2	2	30
転 入	14	5	6	4	0	4	2	4	2	7	4	1	53
転 出	4	3	2	2	1	1	1	4	3	5	1	0	27
1日平均患者数	50.7	55.8	57.5	55.5	56.7	54.6	57.5	57.8	57.3	56.6	57.1	57.8	56.2

【部署名】

5 階病棟

【種 別】

精神一般

【病床数】

58床

【職 種】

27名（看護師22名 准看護師 2名 看護補助員 3名）

【業務内容】

「看護の継続性を図り充実した対象理解と看護ケアに努める」を病棟目標に置き、主にストレス症状を持つ、軽度のうつ病や心身症、思春期精神疾患など緊急避難的な短期休息入院を目的とした利用がある。また急性期の段階的な治療により症状の安定した方、長期的な治療、療養が必要な方を対象とし、看護師がコーディネートしながら専門的分野からの関わりを密にした支援を行っている。入院時から看護師と一緒に退院に向けての目標を立て、病状を評価しながら退院へ繋げている。

病棟プログラムでは生活技能訓練（SST）、心理教育、認知行動療法、マインドフルネス、集団栄養指導、アロマセラピーなど退院後の生活をイメージできるよう入院から多職種医療チームで関わり、適切なコーディネートと個々に応じたプログラムを提供し、利用者と家族のサポート体制を築きながら地域移行へ繋げる取り組みを展開している。

【今後の展望】

一昨年と比べ各種心理社会療法プログラムへの参加者が減少傾向。これは患者層が療養目的で地域移行が上手く進まない事や精神科救急病棟が完成し新規の患者が開放病棟への移動を拒むこと、直接開放病棟に入院する方が減ったことも一因である。

今後はもっと開放病棟の特色を生かし地域移行を見据えた看護の提供をしていく。

患者個々の疾患を理解し適切な看護が提供できるように病棟内で学習の機会を設ける。

一人ひとりがカンファレンスで建設的な意見を出せるよう学習意欲を高める。

患者一人ひとりに合わせた具体的な退院支援を行う。

退院後も心身のコントロールができるようなプログラムを提供。

文責 川島 浩也

【実績】

各種プログラムの参加状況（1回あたりの平均参加人数）

	S S T (1回/週)	心理教育 (全8回)	認知行動療法 (1回/週)	マインドフルネス (2.7回/月)
4月	0	1.6	2	2
5月	4		0	2
6月	4.75		3.4	1
7月	3.4	5.7	3	2
8月	3		2	2.6
9月	2.8	2.4	2	1
10月	0		2.3	1.5
11月	4.25	未実施	4	1.8
12月	2		0	2
1月	2	4.1	2.7	2
2月	2.75		1.7	0.6
3月	3.25	未実施	1.7	1

実績報告
看護部

定床58床

	入院	退院	転入	転出	1日平均患者数
4月	1	8	8	2	52.4
5月	4	14	12	3	49.1
6月	10	13	13	4	56.7
7月	7	15	6	3	53
8月	7	8	3	0	51.7
9月	6	15	9	1	53
10月	6	15	15	3	51
11月	4	17	13	2	54.8
12月	6	12	4	3	51.4
1月	12	12	11	2	51.8
2月	6	12	9	4	57.3
3月	8	17	10	3	56.5

【部署名】

精神科救急病棟（南病棟）

【種 別】

精神科救急病棟 I

【病床数】

60床

【職 種】

41名（看護師34名 准看護師 1名 精神保健福祉士 2名 看護補助員 4名）

【業務内容】

急性期の精神科疾患患者に対し、急性症状の改善と安全を最優先に心身の安静に努め、集中的な治療と看護を提供している。

個別受け持ち制＋機能別看護で入院時から担当の看護師と精神保健福祉士が関わっている。本人や家族に対して必要な支援体制の提案や心理社会療法プログラムの選定（病棟内SST、心理教育、回想療法、OTクラブ）、患者自身による病状と治療経過の評価、家族・患者面談など担当看護師がコーディネータ役として患者がチーム医療スタッフと話し合いながら主体的に治療をすすめている。

患者に安心して療養できる治療環境を提供するため、一般フロア49室はすべて個室で、他に特室 2 室、保護室 9 室、集中的に身体面を治療・ケアするためにPICUを設置している。

医師・看護師・精神保健福祉士など専門のスタッフによるチーム医療を提供し、社会復帰を前提に早期退院（3ヶ月以内）を目指している。その他、看護師臨地実習の受け入れ（新潟医療福祉大学、国際メディカル専門学校など）をしている。

4名の臨地実習指導者を中心として、学生が伸び伸びと実習できる環境づくりと精神科看護の奥深い学びができるよう指導している。

【今後の展望】

- ・クリニカルパスやクライアントパスを活用した治療や看護など多職種医療スタッフでの情報共有と専門的な支援
- ・隔離の早期解除や統一した評価に向けた隔離評価表の導入・検討
- ・入退院のバランスを踏まえた新規入院患者比率・退院率60%以上のコントロールを継続
- ・地域における支援者との関係づくりや社会資源の活用とサポート力の強化
- ・精神科救急病棟算定要件維持

文 責 和 気 一 弘

【実績】

1. 病棟利用状況

	平成27年度(旧3階)	平成28年度	前年比
入院患者数(名)	335	380	65増
月平均入院患者数	27.9	31.7	5.5増
平均在棟日数	55.4	55.2	0.2減

2. 各種プログラム参加状況(1月あたりの平均参加者数と年間延べ参加数)

	平均参加者	延べ参加者数
S S T	13.4	161
心理教育	23.9	287
回想療法	9.2	110
O T	369.8	4,438

3. 疾患別入院者数 H28.4~H29.3

	統合失調症	うつ病	双極性感情	認知症	パーソナリティ障害	精神発達遅滞	その他
4月	7	10	1	6			8
5月	10	12	6	4	1		7
6月	10	6	5	2	1	1	11
7月	11	5	4	2			6
8月	8	10	1	3	1		6
9月	14	10	4	2		1	4
10月	10	11	2	5	2		7
11月	8	4	3	4			4
12月	7	6	3	1	1		10
1月	19	7	1	1		1	8
2月	9	6	2				11
3月	7	7	5	1	1		4
合計	120	94	37	31	7	3	86

4. 新規入院患者入院率と退院率 H28.4~H29.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院率	99.8	99.6	99.9	100	98.3	96.6	99.4	98.4	95.3	99.2	99.6	97.9
退院率	81.5	76.5	83.3	83.3	75.0	90.6	84.0	73.0	66.7	82.3	77.7	88.0
非再入院率	90.4	71.4	96.0	88.8	89.6	100	95.4	100	95.0	100	92.8	95.4

※非再入院率：新規対象者で3ヶ月以内に退院し、3ヶ月以上自宅または施設で過ごした方を対象

【部署名】

中央材料室

【職員数】

1名（看護補助員1名）

【業務内容】

- ・各病棟からの注文伝票による医療材料（酸素ボンベ・携帯酸素含む）、衛生材料（患者のオムツ等）の発注と納品された物品の検品を行い、各種伝票および請求書を整理し、パソコンで管理している。
- ・中材室設置のオートクレーブを用いて滅菌ガーゼの作成と、全病棟から受け取っている医療器材の滅菌消毒を行なっている。
- ・患者の介護用品（車椅子、保護帽、リハビリシューズ、シルバーカー等）を総合的に受注し、担当者への発注と用品の納品、注文伝票等をパソコンで整理・管理している。
- ・院内に設置されているAEDの点検と管理、軽微な医療器材の修繕等を行っている。
- ・医療器材等の関係職員への教育研修等を立案している。
- ・検査室で補佐的な業務を行っている。

【今後の展望】

今年度は精神科救急病棟が開設した事により今まで以上に多種多様な病態をもった方が増え、必要となる医療材料の種類も増えた。引き続き医療材料に関する新しい情報を収集し、より良い物品を提供していきたい。

関係者に、より良質な医療材料・衛生材料の情報提供することで診療現場での混乱を防ぎコスト削減に努める。また、介護用品等を購入時には、スタッフと共に患者に適した物品を提供し、日常生活がスムーズに過ごせるよう手助けをしていく。

文責 村木 憲一

【実績】

- 4 / 7 新人研修での心肺蘇生演習
- 6 / 5 2階病棟ナースセンターで輸液ポンプ勉強会
- 7 / 20 2階病棟ナースセンターで持続点滴勉強会